

肥料&農薬技術情報

1. 今月の農作業
2. 病害虫管理
3. 箱剤と除草剤を間違えないように！
4. 早期水稻の移植前後の管理
5. 柑橘花が咲いたら花肥を！

1. 今月の農作業

3月28日～4月27日までの天候見通し

四国地方	平均気温(1か月)	降水量(1か月)	日照時間(1か月)
各階級の確率	低:10% 並:10% 高:80%	少:20% 並:40% 多:40%	少:50% 並:30% 多:20%
平年比	高い見込み	平年並か多い見込み	少ない見込み

令和8年3月27日 高松地方气象台 発表

《麦》

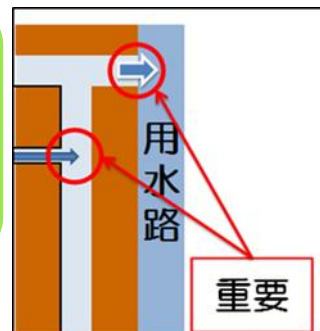
○湿害対策

4月に入ると、**湿害**が発生しやすくなります。雨水が確実に排水できるように**排水溝(明きょ)の補修**を徹底しましょう。

排水不良の圃場では、収量、品質低下の要因となるほか、湿害により根の生育に障害があると、登熟期に乾燥が続いた時に**枯熟れ**の要因となります。

【湿害のメカニズム(春先)】

降雨後は**土壌が水分で満たされる**ため、**土壌中の酸素は低下**します。春先はそれに加え、気温や地温も上昇し、土壌中の微生物が活発に活動を始めます。そのため、**酸素をより多く消費し、湿害を受けやすくなります**。



○赤かび病防除

開花から約10日間が最も感染しやすく、この時期が温暖（気温15℃以上）で連続降雨があると発生しやすくなる。

本病が多発すると収量・品質が低下するだけでなく、生成されたかび毒は人畜に有害で、麦栽培において極めて重要な病害である。



防除適期・・・開花期（出穂後5～7日後頃）

トップジンM水和剤などで必ず防除する。

多発が予想される場合はワークアップフロアブル

などで1回目の防除の7～10日後に追加で防除する。 写真1 赤かび病に罹病した穂

※麦の開花状況や天気予報、病害虫防除所の「麦類赤かび病 胞子飛散状況調査」を参考に追加防除を判断する。

○黒穂病類防除


種子伝染性の病害であるので、発病穂は見つけ次第、

早期に抜取り、圃場外に持ち出す。

（農林水産研究所）

2. 病害虫管理

愛媛県病害虫防除所 (写真：愛媛県農作物病害虫雑草図鑑等より)

病害虫名	作物	発生予想量	防除上の注意	病徴
赤かび病	麦類	並	<ul style="list-style-type: none"> ・薬剤散布は穂が最も病原菌に弱い開花期（裸麦：出穂5～7日後、小麦：出穂7～10日後）を目安に必ず散布する！ ・その後、曇雨天が続く場合には、2次感染が助長されるため、さらに7～10日後に追加防除を行う！ ★特に小麦では、赤かび病防除は、2回防除を徹底する！ 	 
<p>裸麦の出穂期は、昨年より早くなる見込みです。 (11/1 播種で3/3、11/10で3/9、 11/20で3/15、12/1で3/20、12/10で 3/24と予想されています。)</p>				
かいよう病	かんきつ	やや少～並	<ul style="list-style-type: none"> ・発病枝葉は除去し、菌密度を下げる。 ・防風垣や防風ネットを整備する。 ・多発園地では、新葉への感染防止対策として開花前（4月中～下旬）の薬剤防除を徹底する。 ・本病に対して感受性の高い品種（甘平等）では新梢での発生に注意する。 	
そうか病	かんきつ	並～やや多	<ul style="list-style-type: none"> ・罹病枝葉を除去し、園地の病原菌密度を下げる。 ・展葉初期（新梢長約1cm）の防除効果が高いため、圃場観察を行い、適期を逃さないようにする。 	
ミカンハダニ	かんきつ	やや多～多	<ul style="list-style-type: none"> ・冬季にマシン油乳剤を散布していない園地では、密度が急激に高まることがあるので、圃場観察を行い、密度が高まる前に防除を行う。 	
かいよう病	キウイフルーツ	発生時期： 早	<ul style="list-style-type: none"> ・枝幹や枝の切り口等から樹液の漏出や枯死枝の発生が見込まれるため、園地の見回りにより初発を見逃さない。 ・結果母枝の棚付けは確実にを行い、園地の防風対策を強化するなどして、病原菌の侵入口となる枝のすり傷を防止する。 ・芽後叢生期（新梢長約10cm）までにカスミンポルドー：1,000倍、コサイド3000：2,000倍などを散布する。 	 

病害虫名	作物	発生予想量	防除上の注意	病徴
炭疽病	かき	並～やや多	<ul style="list-style-type: none"> • 剪定時に越冬病斑のある枝の除去を徹底する。また、切除した枝は園地内に放置せず、適切に処分する。 • 新梢への感染を抑える防除が遅れないようにする。 	
カメムシ類	果樹共通 うめ、もも びわ、なし キウイ 等	並 果樹園への 飛来時期 早	<ul style="list-style-type: none"> • もも、なしでは早めに袋掛けをする。 • 果樹園への飛来は、曇天で夜温があまり下がらない日に多くなるので、飛来が見られたら早めに防除を行う。 • 主に山林から飛来してくるため、山林に近い園地での被害が多い傾向にある • カメムシ類の飛来が続く場合には薬剤の散布回数が多くなる一方、カイガラムシ類やハダニ類に対してリサーチエンスが起こりやすいので、薬剤散布後の発生に注意する。 	
<p>病害虫防除技術情報(第9号)より 新成虫の発生する8月頃までの発生量は平年並と予想 されますが、越冬量の多い地域では注意しましょう。 越冬量調査結果 東予:多 中予:やや多 南予:並</p>				
べと病	冬春 きゅうり	促成栽培： やや多～多 半促成栽培： 並～やや多	<ul style="list-style-type: none"> • ハウス内の換気に努め、多湿を防ぐ。また、老化葉はできるだけ除去し、圃場内の通風を図る。 • 発病初期の防除に重点を置き、薬剤が葉裏までしっかりとかかるよう、丁寧に散布する。 	
灰色かび病	冬春 トマト	並～やや多	<ul style="list-style-type: none"> • 換気を図り、ハウス内の多湿を防止する。 • 発病果や枯死茎葉は早めに除去する。 • 過繁茂や軟弱な生育は発病を助長するので、適正な肥培管理に努める。 • 発病初期の防除に努め、同一系統の薬剤の連用を避ける（ローテーション防除の徹底！）。 	
	冬春 いちご	やや多～多		
	冬春 きゅうり	並～やや多		
うどんこ病	冬春 いちご	並～やや多	<ul style="list-style-type: none"> • 伝染源となる発病葉・発病果や古葉はできるだけ除去し、通風と薬剤の付着性を高める。 • 果実発病が中心となるため、発病初期の防除を徹底する！ 	

病害虫名	作物	発生予想量	防除上の注意	病徴
コナジラミ類	冬春 トマト	外コナジラミ： 並～やや多 内コナジラミ： 並～やや多	<ul style="list-style-type: none"> 薬液が葉裏までかかるように散布する。 圃場内外の除草を徹底する！ タバココナジラミはトマト黄化葉巻ウイルスを媒介するので、発病株は早期に抜き取り、速やかに処理する。 	
	冬春いちご	外コナジラミ： 多 内コナジラミ： 並		
ハダニ類	冬春 いちご	やや多	<ul style="list-style-type: none"> 気温上昇に伴い増加するので、早期発見に努め、早めに防除する。 気門封鎖剤を含む系統の異なる薬剤をローテーション散布する。 カブリダニ類やミツバチの活動に影響しない薬剤を選択する。 摘葉を行い薬液が葉裏に十分かかるよう丁寧に散布する。 	 <p>カンザワハダニの寄生状況</p>
アザミウマ類	冬春 いちご	やや少～並	<ul style="list-style-type: none"> 早期発見による早めの防除が効果的であるため、圃場内をよく観察する 圃場内外の除草を徹底する。 ミツバチや天敵の活動に影響しない薬剤を選択する。 	
べと病	たまねぎ	並	<ul style="list-style-type: none"> 越年罹病株は見つけ次第早期に抜き取る。 球の肥大期になると感受性が高まり、葉身に淡黄緑色の楕円形病斑が出始めるため、圃場観察を行い、早期発見に努め、発病初期に治療効果のある薬剤で防除を行う。 気温が15℃前後で曇雨天が続くと多発しやすいので、このような気象条件では注意する。 	

**各 JA の防除指針通り
病害虫の防除を徹底してください！！**

3. 箱剤と除草剤を間違えないように！

例年、水稻の箱粒剤と除草剤（1キロ粒剤）を間違えて散布してしまう人が見受けられます。

もし、育苗箱に「除草剤」を処理した場合にその苗は、**必ず枯れます！**

作業前に気を付けるポイント

- ① 使用前は必ずラベルを確認しましょう！
- ② 誰かに作業をお願いする時は、使用する薬剤、使用方法までしっかり伝えましょう！



箱 粒 剤



除草剤（1キロ粒剤）

※農薬を正しく使用し、大切な作物を守りましょう。

4. 早期水稲の移植前後の管理

○稲作は土づくりから！

しっかり深耕し、しっかり土づくりをしましょう

深耕目標は・・・15 cm

土づくりは・・・鉄分とけい酸の補給



「新美土里」が最適

水稲早期品種の施肥基準

水稲品種		窒素	リン酸	加里
コシヒカリ	基肥	3	3	3
	中間		3	3
	穂肥	3		3
	合計	6	6	9
あきたこまち	基肥	3~4	6	6
	穂肥	4		3
	合計	7~8	6	9
基肥推奨肥料	(高度化成) ・化成肥料444、化成肥料403 (緩効性肥料) ・ユーコートクイック ・Jコート特1号、Jコート特2号			
中間推奨肥料	PKミックス、けい酸加里			
高温対策肥料	(流し込み) 楽々ソイヤー、けい酸加里液肥620			

樹脂被覆肥料の肥料殻流出防止策の徹底を！！

流出した肥料殻は、今年施肥したものではなく以前に使用されたもので、代掻きから数日の間に流出するものが殆どです。代掻きから数日間の対策が最も重要です。

対策1 代掻きは浅水で、代掻き後も水田から水を落とさないように管理する。

対策2 水を落とす場合は水尻にネットや柵で殻をキャッチする。

○除草剤

除草剤の処理後7日間は完全に止水し、除草効果を高める。
一発処理剤の多くはヒエの葉齢にあわせて使用時期が決められているため、葉齢が進んだ雑草が圃場に混在する場合は、適用範囲内でやや早めに処理する。

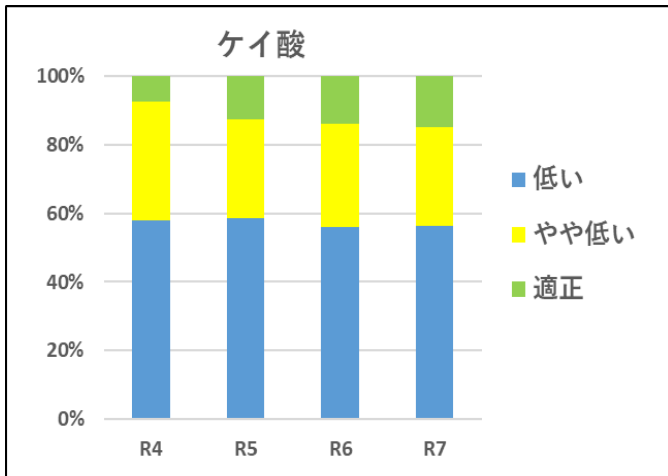
○病虫害防除

コシヒカリは、いもち病に弱いため、本病に効果のある箱施用剤を必ず使用する。
また、置き苗はいもち病の発生源になるため、補植後は水田に放置せず、すみやかに処分する。

(農林水産研究所)

水田 春耕起時に土づくりを行いましょ！

愛媛県内水田土壌の実態(R.4~7年の分析実態)



ケイ酸

ほとんど全ての水田で不足しています。ケイ酸は稲体を健全にし、異常気象への対応力を強化します。

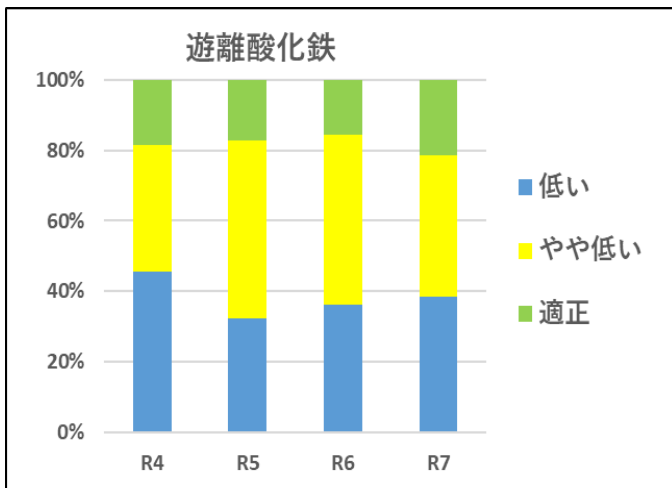
しっかりと土づくりを行いましょ。

ケイ酸を高めるには

ケイカルや鉄強化美土里を施用しましょ。

Q. 施用適期は??

A. ケイカルや鉄強化美土里のケイ酸は「く溶性（水に溶けない）」のため秋口から春先にかけて施用できます。

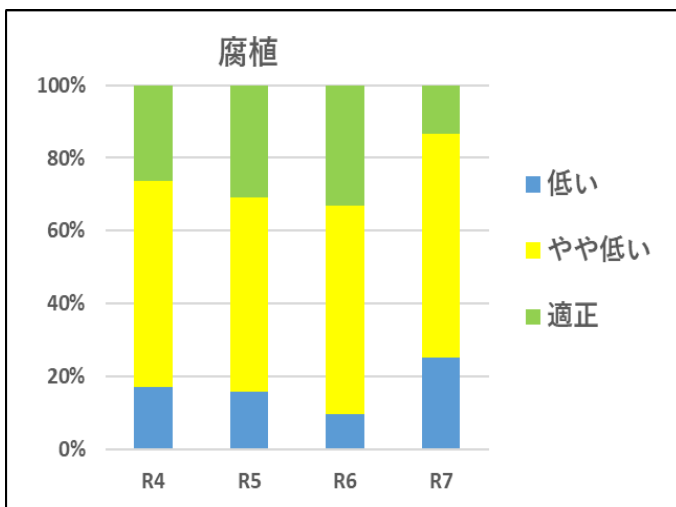


遊離酸化鉄

8割以上の水田で不足しています。遊離酸化鉄は、土壌中にあることによって、硫化水素などを無害化して根腐れ等の障害を軽減することができます。

遊離酸化鉄を高めるためには

「鉄強化美土里」などの含鉄資材を施用しましょ。



腐植

全体の8割近くが不足しています。

腐植はその土地の保肥力（肥料を保つ力）を示しますので、分析結果からは年々地力が低下している傾向になっています。

腐植を高めるには

稲わらのすき込みや、堆肥・「アツミン」などの施用で地力向上に努めましょ。

5. 柑橘花肥の施用で樹勢維持と安定生産を！！

花によってチッソが多量に消費されるこの時期に、光合成によって結実率が決定されます。
光合成のためにも葉中のチッソ濃度を高め新葉の緑化を促進してやる必要があります。
そのためにも速効性チッソを含む花肥を施用することは効果的です。

開花期頃の状態

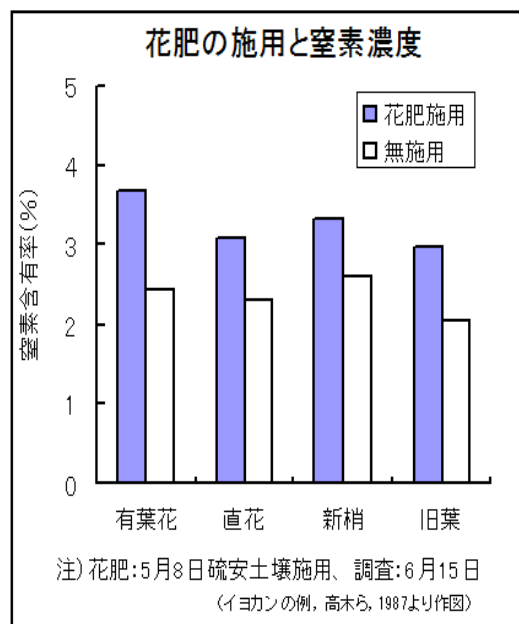


花肥の効果

- ①開花・結実には多くのエネルギーを必要とします。
- ②着花が多いと、春肥などの養分が花に奪われ新梢や新葉などへの配分が不足します。

結果、新葉の充実遅れや新梢・根の伸長が悪くなり・・・

樹勢が低下する恐れがあります



速効性の肥料を10aあたりチッソ成分で3~5kg施用し、樹勢の維持・向上を図りましょう。
土壌が乾燥している場合は、かん水(20mm程度)を行い、肥効を高めましょう。
開花初期から10日間隔で3回程度施用すると、なお効果的です。

土壌施肥の場合

開花直前（4月下旬～5月上旬頃）に速効性の化成肥料をチッソ成分で3kg/10a程度施用する。

葉面散布の場合

開花直前から速効性の液肥を7～10日間隔で2～3回散布する。

樹勢維持のためには花肥の施用を!!

おすすめ資材

肥料名	チッソ	リン酸	加里	施用方法
あおぞら化成	15	14	9	土壌施用（20～30kg）、葉面散布（600倍）
ダブルクイック550	15	15	10	土壌施用（20～30kg）
ダブルクイック660	16	6	10	土壌施用（20～30kg）
ポン尿素液肥	20	—	—	葉面散布（200～400倍）
ポン液肥2号	10	3	4	葉面散布（500～600倍）
神協スピリッツ803	8	10	3	葉面散布（500～1000倍）
液肥167	16	7	—	葉面散布（300～400倍）
パワフルグリーン2号	10	4	3	葉面散布（500～600倍）
グリーンサムピュア	18	18	18	葉面散布（2000倍）

（果樹・柑橘）新葉の緑化促進・樹勢強化に適する液肥

- 葉面マグ・・・水溶性苦土16%
- 神協スピリッツ835・・・海藻エキスとN・P・K
- 尿素・・・窒素46%
- あざやか・・・窒素43%